

阿武隈地域におけるトレビスの二期どり栽培（川内村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 西洋野菜の長期出荷体系の実証（川内村）
担当者 根本知明

I 新技術の解説

1 要旨

川内村ではトレビスの夏どり栽培に取り組んでいるが、収穫時期の拡大が望まれている。そこで、トレビスの夏どりと秋どりを組み合わせた栽培に取り組み、播種及び定植時期を分散して作付けしたところ、夏どりは6月下旬から7月下旬まで、秋どりは11月上旬から下旬まで収穫可能であることを実証した。阿武隈地域における特産野菜の生産振興に活用できる。

- (1) 夏どりトレビスは、「TSGI011」を3月下旬、4月上旬、下旬に播種すると、定植は4月下旬、5月中旬、6月上旬となり、収穫は6月下旬、7月上旬、中旬と見込まれ、「TSGI010」は4月下旬に播種、6月上旬に定植すると、収穫は7月下旬と見込まれた（図1）。
- (2) 秋どりトレビスは「TSGI011」を8月上旬、中旬に播種すると、定植は9月上旬、中旬となり、収穫は11月上旬から下旬と見込まれた（図1）。
- (3) 秋どりトレビス「TSGI011」の1球重は、8月9日播種で296g、8月23日播種で325gとなり、球径は10～11cmだった（表1、図2）。

2 期待される効果

- (1) 阿武隈地域における特産野菜の生産振興に活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 本実証は、標高425mの畑地における試験である。
- (2) 品種は、「TSGI011」（早生、収穫目安は定植60日後）、「TSGI010」（中早生、収穫目安は定植後80日後）を用いた。
- (3) 3月下旬の播種分は、電熱線を用いて育苗トレイを夜間保温した。
- (4) 施肥（元肥）は、夏どり、秋どりそれぞれに、窒素:リン酸:カリ（kg/a）=1.4:1.4:1.4を畝内施用（高畝マルチ栽培）とし、栽植様式は、畝間120cm、畝幅70cm、株間30cmとした。
- (5) トレビスは登録農薬が少ないため、耕種的防除等を組み合わせた病害虫対策が必要である。

II 具体的データ等

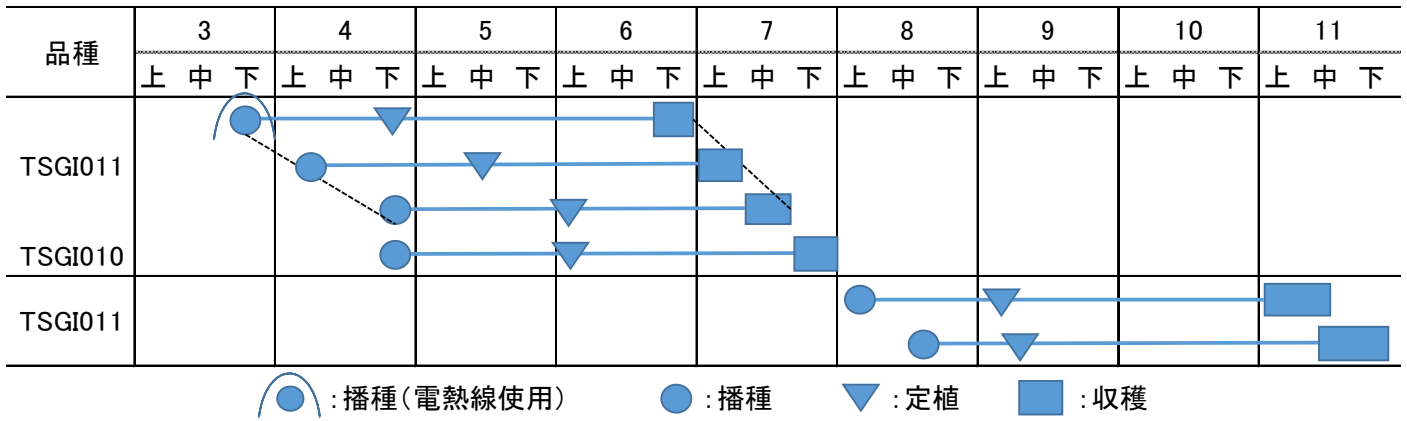


図1 川内村における夏どり及び秋どりトレビスの栽培暦

表1 秋どりトレビスの1球重及び球径

播種日	1球重 (g)	球径(cm)			
		11月1日	11月7日	11月14日	11月25日
8月9日	296	10.0	10.0	10.4	10.8
8月19日	325	-	10.6	10.8	11.0



図2 川内村における秋どりトレビス

III その他

1 執筆者

根本知明

2 実施期間

令和元年度

3 主な参考文献・資料

「みやぎ発信型新規野菜の安定生産技術（トレビス）」平成25年度、宮城県農業・園芸総合研究所